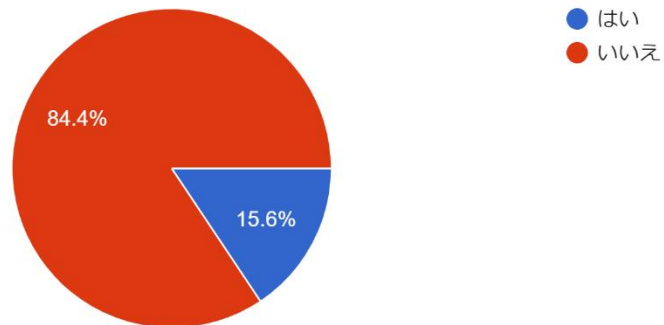


看護未来塾第15回勉強会 アンケート集計結果

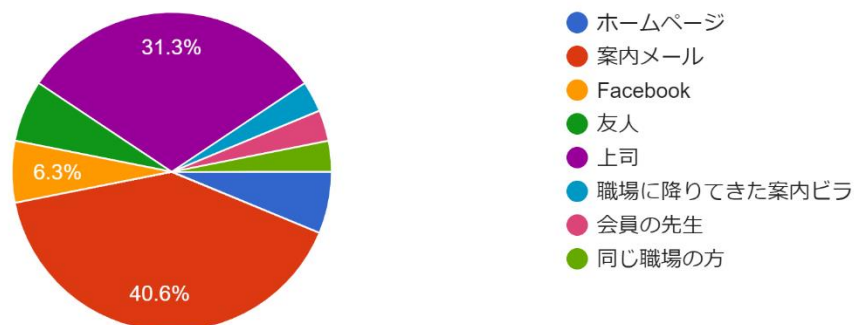
Q1 看護未来塾の塾員ですか

32件の回答



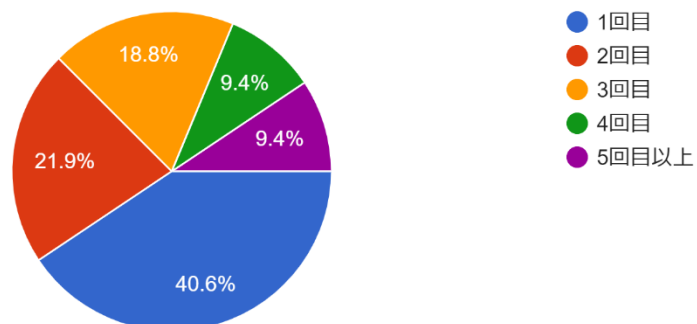
Q2 今回の勉強会が開催されることをどのように知りましたか

32件の回答



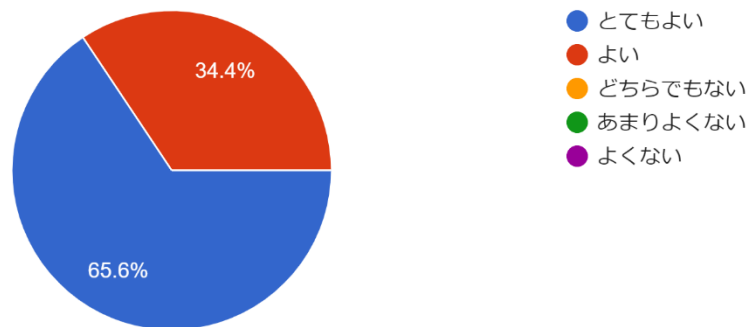
Q3 看護未来塾勉強会への参加は何回目でしょうか

32件の回答



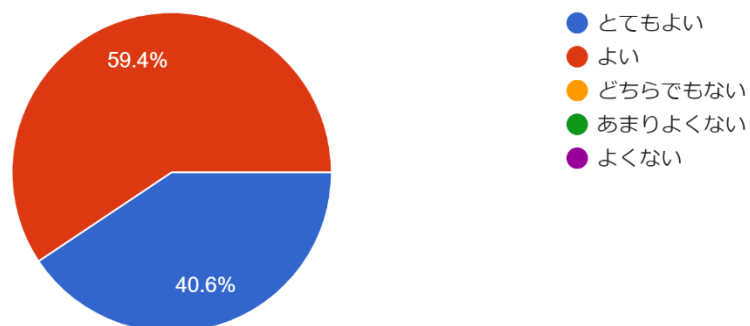
Q 4 第15回勉強会の趣旨についてあてはまるものを選択してください

32 件の回答



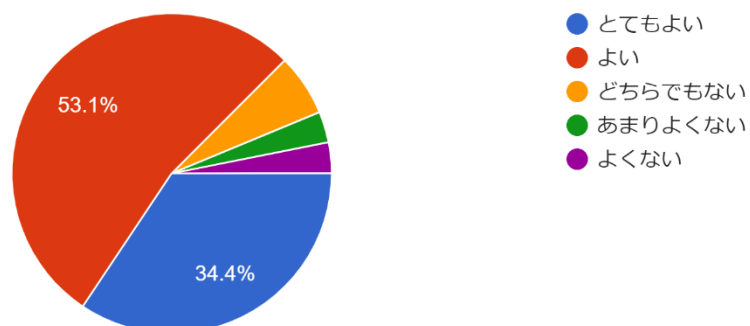
Q5 テーマ1 コロナ禍での臨地実習～学生の思いとコロナ禍での学び～

32 件の回答



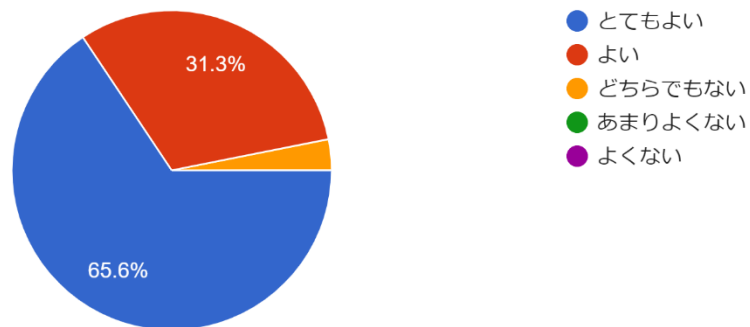
Q 6 テーマ2 臨地実習で看護の本質を学ぶため...

32 件の回答



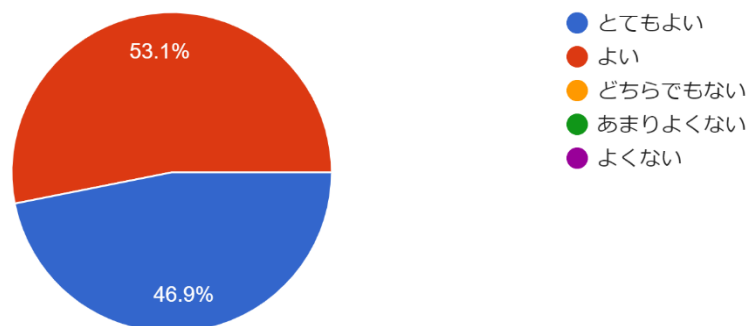
Q7 テーマ3 臨地実習の本質に迫る実習への組み換え

32 件の回答



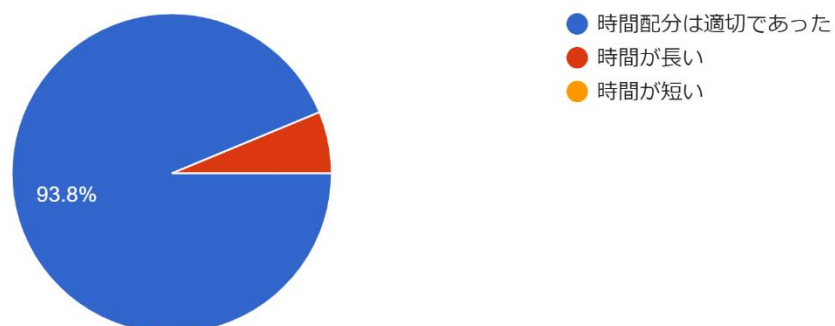
Q8 テーマ4 臨床に軸足をおく Clinical Nurse Educator(CNE) の活動～実習支援の実際～

32 件の回答



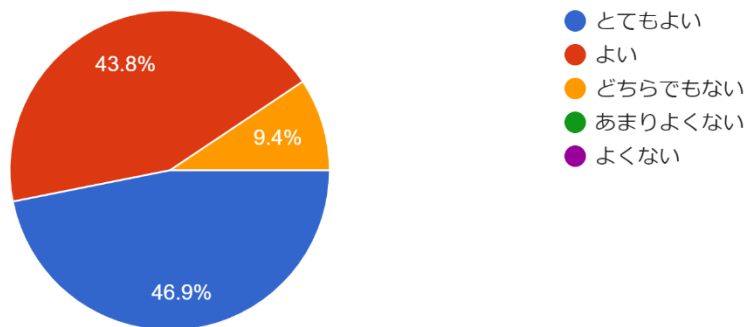
Q9 全体討論会の時間配分について当てはまるものを選択してください

32 件の回答



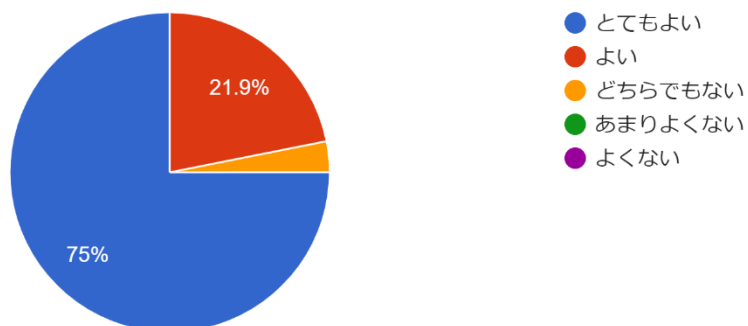
Q10 全体討論会の内容についてあてはまるものを選択してください

32 件の回答



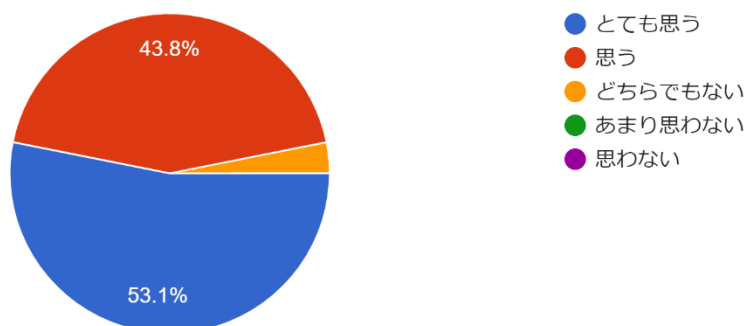
Q11 リモート勉強会の開催方法についてあてはまるものを選択してください

32 件の回答



Q12 また、看護未来塾に参加したいと思いますか

32 件の回答



Q13 今回の勉強会に関して、感想・ご意見などございますか 23 件の回答

Q13 今回の勉強会に関して、感想・ご意見などございますか

- 学生は領域別実習を経て、自分の関心領域が明確になり就職したい病院や領域を決定することも多々あることを鑑みると、菱沼先生が出していただいた実習形態では難しいのではないかと感じました。student nurse 制度や卒後研修などの制度が確立され、看護基礎教育が 6 年などに延長された後であれば、菱沼先生の実習形態が効果を発揮するのではないかと感じました。
- 「臨地実習の本質に迫る実習への組み換えについて」は、是非検討していきたい課題となりました。具体的な検討によりいろんな課題が見えてくるかと思いますが、まずはシミュレーション教育を展開する環境を整えることが大事です。しかし、小規模の私学では中々難しい面もあり、シミュレーション教育の環境が整えられる大学とそうでない大学の間で教育較差が生じるのではないかと危惧する面もあります。
- 以前から臨地実習の時間数について疑問をもっていたこともあり、今回の未来塾のご提案はとても納得のいくものでした。実現を期待いたします。また、学生さんの意見を聞いたことも大変貴重な機会となりました。
- 看護教員です。コロナ禍における看護基礎教育において「できること」「できないこと」がどのような影響があったか考え、今後の講義・演習・実習をどのようにブラッシュアップしていくか、構築していくかが重要だと思います。菱沼先生がお話しされた「何もかもを、臨床現場で学ばせていたのをやめる」ということがずっと腑に落ちました。現役の学生の方の意見は、看護を学ぶ・看護職を目指す意欲が高まる教育という点で大変参考になりました。看護未来塾から提案する実習を現実化、ということを考えてみると、キャリア形成という観点から B のシミュレーションに「看護が行われている現場の見学や体験 (D の 1 週目に近い感じ)」を組み合わせてみるのもよいのではないかと考えました。本日の勉強会に参加し、視点を広げることができました。
- 菱沼先生がご呈示くださいました看護学実習の提案は、今後の実習のあり方として、非常に良いと感じました。しかし、各看護学分野の先生方からは、4 週間の病院あるいは地域の実習では足りないという反論が必ず出てくるだろうと思いました。医療・看護の高度化に並行して看護基礎教育で教授される内容が、どんどん高度化、肥大化し、現在に至っているものと思います。最先端の医療・看護に触れさせることが、あたかも最新の実践者育成であるように誤解されている面もあるのかもしれない。ご提案の実習を実現するためには、「看護基礎教育」で学ぶ内容とアドバンスな内容を峻別し、卒業時の学生像の確認をした上で、教育内容の精選を行うことが必要ではないかと思いました。
- 菱沼先生からご提案頂いた内容について、「あり」と思う反面、ここはどうなるのだろうという疑問符も沢山ありました。まず、現在の領域別をどう克服するかです。個人的には学部教育はジェネラリストの看護師の養成で、小児や母性、精神等の専門領域は修士というのもありなのか…とったりもしました。知識としては領域が残り、実習に関しては卒後のローテーション研修のように短期間だけでも一通りの領域を経験した方がよいように思います。学生の木戸さんのお話にもあったように、隣地での体験で見え方が変わる学生、実際のイメージがつきにくい領域というのもあると思うので、実際に知る意味での領域別の実習機会は必要かと思いました。なので、看護展開の考え方や思考、判断は学内のシミュレーションで丁寧に押さえるなど、シミュレーションで何を学ぶか、実習で何を学ぶのかの意味づけが重要なのだと思っております。今日の議論が今後、どの様に発展していくのか楽しみです。
- 菱沼先生のご発表にあったように看護教育のあり方が変化する中で、臨床現場とつなぐ役割である CNE の存在がより大きくなるのではないかと考えた。CNE の役割がもっと広く知られ、看護部や看護教育部を变革していくことも同時に必要なだろうと感じた。
- 新たな実習についての提案はとても良いと感じた。ぜひ実現してもらいたい。
- 私は学生を受け入れる側です。なかなか難しいと思いました。

- 今回の提案は現実的でもあり、一方で膨大な準備が必要な内容でもあります。まずは、現在試行錯誤しているシミュレーションの方法、目的を明確にすること、臨地実習の持ち方とシミュレーションが明確につながることを、シミュレーションが倫理実習の代替えではない目的性をもったことが教員、学生双方共通認識をもって取り組めるものにしていくことが大切であることに、気づかされました。
- シミュレーションは一つの方法に過ぎないので、限界と利点を知って、適当に使うのが良いと確信しました。
- 実習で何が一番大切なのか、それは看護ケアの体験であるということがとてもよくわかりました。いくら教員が教えても、シミュレーションを行っても得難いことであると実感致しました。コロナの時代を迎えて、色々な問題が明らかになり、だからこそその根本的な意味を考えることが求められています。冒頭の南先生の、もとの戻ることではなく、復興の理念で新しい時代を作っていくというご発言にハッとさせられました。また、木戸さんという学生が発言するときの吉澤先生や菱沼先生の温かなまなざしに教育者であることを感じました。これから 2 年ぶりに実習が再開になる予定です。学生が看護ケアの体験ができるようにと前向きな気持ちになりました。
- 今日の提案は、発想も含めて壮大な内容であり、私どもの所属する専門学校 3 年では想像もつきません。看護教員数も限られ、シミュレーション教育を取り入れてはきていますが、高機能シミュレーションの購入や設備環境についてはかなりハードルが高いものです。大学と専門学校で看護基礎教育において、質的な差は否めません。しかし看護教育の質を高めることはとても大事だと思います。今の日本の看護師養成に対する考え方、法律・教育制度も含めて外枠も変えていかないと各養成機関だけの責任や力だけでは、変革していくことはできないと思いました。
- 授業の内容や方法、特に実習の構成について、これまで当たり前だと思ってきた考えが揺らぎ、大変刺激的で勉強になりました。ありがとうございました。
- ちょうど領域別実習がひと段落したタイミングで、自分たちの教育実践を振り返る良い機会となりました。基礎学力の低い学生が多い中で、どのように主体的学習態度を育てるか、非常に難しい課題を抱えております。すぐに結果が出るものでもなく、一筋縄ではいかぬことですが、継続した取り組みを考えていきたいと思えます。発言された学生さんの、率直な、かつ客観的な意見が印象的でした。
- コロナ禍で見えてきた看護教育の課題について俯瞰して考えることができました。第一線で活躍されている先生方から最新の情報が提供され、とても勉強になりました。
- コロナ禍で臨地実習が制限されたことによって、実習のあり方の見直しが必要であると感じていたため、本日の内容は大変刺激的で、ワクワクしました。現状から考えると、ご提案の実習はとてもよいと思いましたし、実現していきたいと思えました。また、この場合、現在の統合カリキュラムでの助産師や保健師教育はどのようになるだろうか、と思いながら伺っていました。
- はじめての参加でした。限られた時間でしたが、近未来の看護の方向性について知ることが出来ました。
- 時代の状況に応じた教育のあり方について、既存の思考の枠を取り払って考える柔軟さが求められるなど感じました。看護教育の本質は何かについて考える非常に有意義な時間でした。また実際に現教育を受けておられる学生様の声も非常に参考になりました。
- 初めて参加しました。コロナ禍での看護基礎教育のあり方について、考えさせられる日々でした。感染対策の強化とともに様々な制限が課せられる看護学生の立場に立ちながら、学習権の保障をしていくことに力を注ぐ 2 年間がありました。
- 臨地実習に関しては、本当にこれでいいのかという明確な答えが出せない状況下で、学内実習で補い、臨地とオンラインをつなぐなど工夫はしてきました。しかし、ほんまもんを学ぶには臨地であり、看護体験の少ない学生を送り出すことになっています。卒後教育でフォローがかなり必要であると感じています。ジレンマを感じながら教員たちは働いています。

- こうして勉強会に参加して、いろんな立場の方々で話合うことはとても大事だと思いました。私は圧倒されて意見が言えませんでした。学生さんが素直に意見を述べ主体的に勉強会に参加されている姿が新鮮で素晴らしいと思いました。そんな主体性をもった学生さんを育てられる看護学校にしていきたいと感じました。
- 助教1年目で実習指導の難しさに直面したため、興味をもって勉強会に参加しました。スピーカーの先生方のレクチャーにより、実習前の演習や講義による準備性を高めることの重要性や、目標を学生と共有し進むことの重要性を学びました。現場で学べること、学内で補完することのメリハリを教員自身が認識することが重要だと気づきました。そして、コロナを経て、看護教育は、臨地とシミュレーションのハイブリッドに移行していくのだと強く感じましたし、その方がより良い学びに繋がるのではないかとポジティブに感じました。大切な事は、どのような方法であっても、学生さんが看護学を主体的に学び、ケアリングの精神を身につけられることなのだなと思いました。学生さんの生の声を伺えたことが、とても印象的で、有意義でした。たくさん学ばせていただきました。
- 本日は貴重なお話を伺うことができ、ありがとうございました。先生方の議論から、看護学の基盤となる生涯発達、病期、療養の場などのいくつかの軸をどのように組み替えていけば、社会情勢を踏まえた上での効果的な実習となるのか、とても悩ましい問いだと感じました。シミュレーション教育については、まだ不勉強な面が多いのですが、これからコロナ禍で培われた多くの取り組みの情報収集をしていきたいと思いました。対象の属性や場に捉われないジェネラリストを育てるという看護基礎教育のとしての足場をどのように固めるのか、先生方の仰るように、細かい議論を積み重ねる必要性を感じました。
- 臨床実習を終えたばかりで、テーマに興味があり参加させていただきました。オンライン授業が増えた年代を担当し、患者さんとのコミュニケーションの取り方や情報収集の仕方に、コロナ禍のオンライン授業の割合が増えた学生たちの行動面での影響を感覚ながら感じておりましたので、そのような内容もお話されていて、共感しました。また、CNE という方の存在を初めて知り、臨床側も人手が足りない中指導者をやりくりしていただいています。人員に余裕があればそのような存在の方がいらっしやると、とても学生の学びに効果が得られそうだと感じました。このたびは参加させていただきありがとうございました。

Q14 今後の勉強会に関して、ご要望などございますか

- コロナ禍での臨地実習における取り組みについて、複数の大学による実施例から学びたいと感じた。
- 上記から、ご提案の実習実現に向けた課題を一步ずつ検討するような勉強会があると良いのではないかと思います。例えば、看護基礎教育内容の精選、CNE の養成、卒後臨床研修制度の実現などです。
- 提案がいつも新鮮で本当はこういうふうな発想を広げ、修正しながら時代のニーズに合わせていきたいと感じます。そういう意味では、提案の部分がどのような経緯を経てまとめられていったのか、論議の軸は何であったのかなど、発想や思考の過程をより詳しく拝聴したいと感じました。本日もありがとうございました。
- 臨地実習の本質と変革について、引き続き討論できる機会があるとよいと思いました。